

2021(令和3)年11月

習志野市男女共同参画社会づくり情報紙

第51号

きら *Kira Kira* きら

特集

保護者の役割を見直して ～参加しやすいPTAへ～



花壇の植え替え作業を行うボランティア部の活動の様子（保護者提供）

子どもたちが豊かな学校生活を送る背景には、学校の先生をはじめ保護者や地域の方々の協力が不可欠です。共働きの家庭も増え保護者の生活環境も時代とともに変化中、PTA 活動の見直しを行い改革に取り組んだ学校の保護者がいます。改革後に役員として参加し活動の楽しさや保護者同士のつながりを感じたという声もありました。

どのような改革を行ったのか PTA 役員の皆さんにお話を伺いました。

KIRAKIRA INTERVIEW

今回は市立第七中学校PTAで活躍する7人の保護者にお話を伺いました



令和3年度 会長
仁王 俊明さん



令和3年度 副会長
伊藤 かほるさん



令和3年度 副会長
鈴木 平さん



令和3年度 副会長
福嶋 尚子さん



平成29年度
～令和2年度 会長
齋藤 いつみさん



平成30年度
～令和2年度 副会長
朝日 美晴さん



平成30年度
～令和元年度 副会長
古城 和子さん

何が変わった？七中PTA

改革の主な取り組み

PTAへの入退会を自由に

⇒これまでの実質的な強制加入から任意に加入・退会できる組織にしました。

マ・メールの活用

⇒携帯メールを使った連絡網が利用できる情報ツール。会員への情報発信がしやすくなっただけでなく、アンケート機能を利用して、会員の意見を集め、今後の活動に活かしていくことができます。

負担軽減のための見直し

⇒会員が無理のない範囲で活動できるように、会議の方法や、イベントの参加方法を見直しました。

— 入退会自由に —

朝日 PTAの存在意義について議論されることもありますが、私たちは「PTAは重要だ」と考え、あくまでも保護者が自主的に取り組む団体を目指してきました。入学式の日には役員が決まるまで帰ることができず、最後はくじ引きで決めるということもよく聞く話だと思います。それは自分たちが目指す姿とは違うなと思ったことが組織を見直すきっかけでした。

齋藤 PTA会員を、会費を納め運営する「会員」、興味のある活動やボランティアに参加する「活動会員」、そして卒業生の保護者などの「準会員」の3つに分けました。

古城 一番の大きな変化は、これらの参加が任意であることです。「加入が当たり前」から加入の意思をもって参加する団体に変えていこうと取り組んできました。

— マ・メールを使って —

古城 文書によるお知らせのため、紙の購入、印刷・ホッチキス留めなどの作業がなくなり、時間が短縮されたことは大きなメリットです。

福嶋 配布のために、学年・クラスごとの会員数を把握したり、学校に配布をお願いしたりする必要もなくなりました。また、会員も通知の受け取りを選択できるので、三者にメリットがあると感じています。

— WEB会議に挑戦 —

福嶋 誰でも参加できるように、現在はWEB会議に取り組んでいます。私自身、日中仕事をしており、直接会わなくても会議に参加できるので、役員を続けることができていると思っています。

「謝らない」それがルール

仁王 「会長だから」と気負うことも少ないです。「できなくてもお互い様」という気持ちで全員が活動していることが、無理なく活動を展開できることにつながっています。家庭や仕事、人とのつながりがある中でできること・できないことはそれぞれあります。「会議に出られなくても謝らない」「できなくても謝らない」というルールで進んでいることが、参加しやすい環境の一つだと思っています。

伊藤 小学校でもPTA役員をやりましたが、集まる機会など時間の制約が多く、初めてのことで大変でした。「あれもこれもやらない」と気が焦り、最後は「もうやりたくない」という気持ちでした。今回、組織改革のことを耳にしていたので、どんな感じかなと思い役員を引き受けました。WEB会議やマ・メールを活用していて、画期的だと驚いています。

仁王 今までは「やらなければならない」「もしやり忘れてしまうと大変」というプレッシャーがあったと思います。そうすると伊藤さんのように大変だったという思いが残ってしまいます。しかし、今は「できることをやろう」という雰囲気です。



Zoom会議の様子

変わる意識、増える家族との会話

鈴木 息子が小学校に通っている頃、PTAや学校のことには妻に任せきりでした。なので今回、副会長をやらなかったかと声をかけられたときは断る理由を探していたのが本音です。しかし、引越してきてすぐに、香澄まつりや地域の運動会に参加し、思いのほか自分自身が楽しんで活動していることに気づきました。

PTA活動を通して、こうしたつながりをもてたらと思い、役員を引き受けました。役員を引き受けてから、学校に対する意識や家族との関わり方が変わりました。今までは妻や子どもから聞くばかりでしたが、今は活動を通じて知った情報を自分から話すようになりました。そのほかにも学校のこと、今まではなかった学校の話題で家族の会話が aumentata と感じています。

齋藤 上の子で役員を打診されたときは、私が子育て・夫がPTAと、それぞれシェアしました。そのときは、夜に打ち合わせをしていましたが、夫は定時に退勤したり、有給休暇を取るなど調整して参加していました。こうした経験もあるので、PTAの大変さを理解し、夫婦で協力できたと思います。

朝日 夫は「PTAが好きだからやるでしょ。どうぞ好きなことを。」と、あまり関心を持っていない様子でしたが、改革のことを話したり、ときには相談する中で、徐々に関心を持つようになって、それが日常的になっていきました。SNSでPTA関連の記事を見つけた夫がその内容に憤慨していると、内心「よしよし！」という気持ちです(笑)。

今では、PTAに関連することで議論をするほど、学校のことで会話することが増えたと実感しています。PTAが我が家の生活の一部になっているのだなと。

古城 改革を進める中で、PTAについて夫から質問されることが増えたように感じます。「任意加入にして、加入する人がいなくなったらどうするの」と聞かれ、「そのときは活動はやらない」という私の答えに驚いていました。PTAは「やらなければいけないから誰かがやっている」と思っていたそうです。PTAの活動や学校の活動について、夫がより関心を持つようになりました。

母親だから、父親だから、ではなく 家族や地域のみなで

仁王 PTAの活動は、活動している姿が見えないと、賛同してくれる人も参加しにくいと思います。私の役目はPTAの会長としてだけでなく地域のつながりの中で、活動の様子を伝えていくことだと思っています。これをきっかけに学校に通う子どもがいない世代にも伝わり、協力していただける機会が増えたらいいなと思っています。

福嶋 他の学校の話ですが、ある父親の方は、リモートワークで時間ができたので、PTAに参加するようになったとのことでした。PTAを家族で共有することとして認識されていることに感心しました。この家庭のように、夫婦どちらかではなく、家族で共有するものとして認識されていったらいいなと。将来的に、個人ではなく家族単位で参加したくなるPTAになるといいなと考えています。

齋藤 PTAはあくまでも「親が自主的に取り組む」団体です。親同士がつながり、ともに子どものことで悩んだり考えたりしてほしいです。そのつながりの中で子どものためにできることをやっていけたらいいなと思います。

今までは母親中心で活動することが多かったのですが、父親の積極的な参加を通じて、様々な視点で活動を進めていってほしいですね。

インタビューを通して

今回の取材で、PTAの活動や改革に参加し、ご自身またはご家族の学校に対する意識が変わったり、今まで以上に家族との関わりが深まったことがわかりました。皆さんの回りに、誰かに任せきりにしている仕事はありませんか。その仕事をシェアしてみることで、今までになかった視点がえたり、家族との関わりが変わるきっかけになるかもしれません。

取材 佐藤委員・仲野委員

毎年11月12日から25日は 女性に対する暴力をなくす運動期間です



配偶者やパートナーからの暴力やセクハラなどは決して許されない行為です。

女性に対する暴力の根絶と被害者へ「悩まず相談してほしい」というメッセージを込めて、この活動のシンボルであるパープルリボンにちなみ、市役所のハミング階段をパープルに装飾します。また、関連したパネル展示も行いますので、ぜひ足を運んでみてください。

展示期間：11月15日から30日（平日・市役所開庁時間のみ）

展示協力：(男女共同参画推進団体) Maya Moon・ウィメンズ・ウィングちば

きらきら★
キーワード 🔍

デートDV

交際相手に対する、からだ、言葉、態度による「暴力」をいいます。殴る、蹴るというだけが暴力ではありません。暴言を吐く、無視する、メールを勝手に見る、他の友人との交遊を禁止する過度な束縛、性行為の強要なども含まれます。どんな暴力も相手のところからだを傷つけます。

内閣府によると女性の5人に1人、男性の10人に1人は交際相手から暴力を受けた経験があり、そのうちの約50%は何処にも相談できず、約25%は心身の不調を訴えているとのこと。デートDVは誰にでも起こり得る身近な問題です。その加害者・被害者にならないためには、デートDVについて知っておく必要があります。そして、「自分のことかも?」と気づくこと、相談することがとても重要です。(S委員)

◆男女共同参画コラム◆ 「女性の政治参画」

世界経済フォーラムが令和3年3月に公表したジェンダーギャップ指数によると、日本の順位は156か国中120位。特に政治分野では147位と各国がジェンダー平等に向けた取り組みを進めている中、先進国・日本の現状は遅れをとっていると感ずります。

令和2年度内閣府男女共同参画局が行った「女性の政治参画への障壁等に関する調査研究」によると、選挙の立候補を断念した理由について「当選した場合、家庭生活との両立が難しい」などの項目で女性の回答が多くみられ、男女間に差が出ています。また立候補を検討または準備中に、ハラスメント行為を受けたとする項目でも女性の回答が男性を大きく上回りました。

同局は本調査結果を幅広く周知し、ハラスメント防止に向けた研修や実施状況の見える化に取り組むとしています。(O委員)

女性の生き方相談

***無料 *要予約 *秘密厳守 *市内在住・在勤・在学者対象**

◎夫婦のこと ◎家族のこと ◎人間関係のこと ◎自分自身の生き方について ◎これはDV? (ドメスティック・バイオレンス) …など 初めての方も安心してご相談ください。

〈面接相談〉女性の専門相談員があなたと一緒に考えます。

日時：第1金曜 午後1時30分～3時10分・4時～7時40分

第2・4火曜、第3木曜、第3金曜 **1回40分**

午前9時～11時40分・午後0時30分～4時10分

場所：サンロード津田沼6階 市民相談室

申込：習志野市男女共同参画センター（ステップならし）

編集委員の おすすめ図書

主婦をサラリーマンにたとえたら 想像以上にヤバくなった件

河内瞬 著

主婦の友社 発行 2019年



妻と2人の娘との4人暮らしの著者が、サラリーマンから主夫(シュフ)に転身して分かった家事・育児の大変さについて、奇想天外・身勝手な子どもを部下に置き換えた漫画も交え、描かれています。

シュフは24時間「家庭」という職場で家事・育児に奮闘し、サラリーマンと違い大人との会話も少なく孤独。ストレス解消のためサラリーマンが退社後、同僚と居酒屋に行くように、シュフにも気兼ねなく友人と外食したり、一人で過ごす時間が必要であり、つらい時は助けやねぎらいの言葉も救いになります。

中でも印象に残ったのは「人に優しく出来るのは人に優しくされた経験があるから」という言葉。仕事だけでなく家事・育児も負担が大きいという共通認識を持って、協力し合える夫婦が1組でも多くなる事を祈って、と締めくくられています。(C倉委員)

◆上記の本は男女共同参画センターで貸し出ししています◆

図書の貸し出しについて

- *市内在住・在勤・在学者対象
- *1回5冊まで、期間は2週間



現在感染症対策のためセンター内での本の閲覧はできませんが、事前予約制により本の貸し出しを行っています。

市ホームページ内「情報ライブラリ」を検索し男女共同参画センター図書一覧から本を決定、ちば電子申請サービスまたはお電話でお申込みください。

編集委員会よりお知らせ

・「きらきら」は、公募による編集委員と協働で企画・編集を行っています。編集会議は平日の月1回開催。オンラインを併用しながら会議や取材を行っています。見学は随時可能ですので、興味がある方は男女共同参画センターまでご連絡ください。

・より良い紙面づくりのため、記事内容等に関するアンケートを実施しています。皆さんの率直なご意見・ご感想をお聞かせください。

【回答方法】

右記のQRコードから専用メールフォームにアクセスし、各質問項目を回答して「送信」を押してください。

